

## 精神統一に必要な知識

### 1. 精神統一と環境の変化

本日は精神統一についてお話ししようと思います。

今日ご出席の皆さんは、精神統一（単に『統一』ともいう）の指導をご希望で、その順番をお待ちの方々ばかりであろうかと思えます。

まず、申し上げておきたいことは、統一をする順番が来てから、その準備をしようとするのでは遅いということです。それは現在、統一を実修している方々を観察していて、それぞれの方が色々な問題を抱えていることから、このように申しているのです。

ですが、今日は、皆さんがすでに統一を実修する資格があると一応考えてお話を進めたいと思います。皆さんもそのようにお考えになって、精神統一について十分ご理解いただきたいと思えます。

ここで、「資格がある」と申しましたが、もちろんまだ資格のない方がここにご出席されていることも、一言付け加えておきましょう。

これからお話しするように、「本当の統一とはこういうものである」という、間違っただ固定観念のお持ちの方には、なかなかご理解いただけないことがあるかと思えます。

ここにご出席の方々は、少なくとも統一についての書物に目を通してくださっているものと思っております。それだからこそ、「統一をしたい」と申し込まれている。ところが、皆さまの中には、ご自身では正しい精神統一とはこういうものであるとご理解されているとしても、私からみると誤解されておられる方がいらっしゃるように思えます。そこであえてこういう言葉を付け加えたわけです。ですから、あらためて、精神統一に関する書物をお読みいただきたいし、また、考え直していただかなくてはなりません。

いまも言っているとおり、統一をはじめられたことはよかったが、進展しない。それでは現在統一を実修されている方々についてはどうであろうかということは、あまり申し上げたくないのですが、私、率直に申しますと、順調に進んでおられる方はほとんどいないとみてよいと思っております。それは、ご自身では、「いや何らかの恩恵があるから順調なのだ」と言われますが、その恩恵はもちろんあるでしょう。たしかに、私自身の考えている精神統一には、いろいろな面において、少なからず恩恵があるはずなのです。しかし、私が言わんとしていることは、多少ではなく、その数がよほど多いところに目標を設定しているわけです。少しぐらいの恩恵では、真の精神統一をやっているうちには入らないということでもあります。

日ごろから、一番関心を持っておられ、また言及することが多い健康面の改善についてであります。この健康面ということなどは、後回しにしてよいかと思えます。まず、精神統一の成果が明らかにあらわれたと理解されるのは、自分というものが、「何かこれまでの自分ではない」というような、そのように自分というものに変化が現れるわけですね。具体的に言うと、その第一は、独創的な能力・才能というものが大いに進展を示すわけです。この独創的な才能・能力というものが進展するということは、今までやっておられますことすべてに能率が上がるということ。それから、いわゆるコツというものが会得できるということとであります。

端的に申しますと、やはり「道」とか「芸」とかという世界に修行しておられる方の場合などは、目に見えて上達して行くということになります。その背後には、どの方の場合にも、幾つかの善い霊、あるいは悪い霊が判りませんが、その数もさまざまであり、大体において2体以上のいろいろな霊魂が働いているのです。

もちろん、こう申したからといって、それは全部善い霊かと言われると、さにあらずで、大部分は悪霊的といってよいか、これらの霊については詳しく調査をしなければなりません。とにかく悪霊的なものが多いわけですね。ですから、いま申したように、そうした霊魂たちが私たちに働いている。統一はその霊魂を整理してくれるわけです。もちろん、良い意味で、すなわち、この方のプラスになるように、指導者は整理をしているわけです。したがって、暮らしの上に大変な変化が現れるはずであるということがお分かりになると思えます。

そういう意味合いから第一番目に現れるのは、心の持ち方が反映するというので、「芸の道」を例として上げましたが、「道」に関するものが一番早いのです。したがって、芸術とか芸能とかいう、こういう「自我」一つによって進展が見られるものが好例と言えるのです。

この一方で、商売とか、あるいは人を使うといった場合には難しいのです。これについては説明する必要もないと思えますが、自分の意思でやろうとしても、しかもやろうとしていることに大変熱意、または信念を持っていても、手足となってやってくれる人たちが当然皆さんの周囲に必要である。あるいは、その組織体を構成しているというのか、そういう方々がいらっしやるでしょう。これは一家でも同じことなのです。いま最初に出した例は、自分ひとりのこと、それから、あとの例は、二人以上の、そして自分以外のいろいろな方の働きによって結論がでる。あるいは結論という言葉が適当でなければ、効果がでる。後者の場合にはちょっと単純に理解するわけにはいかないのですけれど。

ですから、そんなことであれば、自分の霊能を発揮できるか、あるいはもっと発達するようにというので、「単純な」と断定するわけではありませんが、効率を求めて、自分の霊魂の一つが働けば済むような仕事に変えようとされても、それはできないのです。やはり、各人には使命というものがあるわけです。

ここで話題は使命との関係ということになってきます。と言っても、使命というものは、私たち自らが、こういうものが使命だと考えたり、あるいはこれは天職に違いないというのはあまりにも早計なのです。私たちの使命というのは、神が与えたというか、造物主が与えた使命を指しているわけであります。自分の思っていることと、使命とが合致している場合もあるかもしれませんが、しかし、自分だけの思い込みであって、実は使命ではないということもあり得るわけです。

そういうことから、私たちは、これが絶対とまでは断言しませんが、守護霊が一番よく知っていることから、守護霊に聞くべきだと、こう申し上げながら、精神統一を行っているのです。すなわち、その実修をしていく過程で、自分の使命がはっきりしてくるというわけです。これを知ることと統一をやっている方の、いわゆる一つの恩恵とあってよいか、あるいは統一によって初めて統一の実が上がったということになるわけです。

統一をやっているうちに自分の使命というものがわかってきますよ。だから私は、統一というものを若い頃からやるべきだと強調しておきたいし、一つの人生の道だと思っております。

しかし、それは別問題として、このようにいろいろな点において大きな変化が起こるわけです。もっと具体的に申しますと、勤めている方には必ず現在の地位というものに変化がでる。その結果、人を使っている場合には、その中の悪い人は自然淘汰されるというか、とにかく自分自身の使命達成、それをやるべきことに相反するような人は自然に辞めてしまうとか、あるいはその人たちにある変化が起きて、いままでとは変わったようになるか、こういうことは職場だけではなく、一家の中でも起こるわけです。

そうしたことと同時に、事業は進展する、繁栄の道が拓かれていく。一家の場合ですと、一家の秩序が整い、それまで大変困らせてきたような分子は消えて行くとか、商売がうまくいかなかったのが、上手くいくようになるとか、そうした意味で何か秩序だっ て行くわけです。それと同時に一家の健康にまで影響が及んで行くというのが私の理想であり、「そこまでは到達するはずなのですよ」と申しあげているのです。